



さつま町立 盈進小学校

児童数 457 人
学級数 23 クラス



《テーマ》 お互いを認め合い、自分の思いを表現できる児童の育成 ～人権教育を基盤とした教科等の実践を通して～

研究に当たって（テーマ設定の理由）	研究の実際
<p>昨年度は同じテーマで道徳の授業実践を通して研究した。</p> <p>今年度は、更に授業や学級経営を中心に、全教育活動で人権教育を基盤とした実践を行い、自尊感情を育成し、互いを認め合い、安心して自分の思いを表現できる児童を育成したいと考え、本テーマを設定した。</p>	<p>6月5日（月）職員研修 「人権同和教育について」</p> <p>6月 相互授業参観（各学年部）</p> <p>10月30日（月）職員研修 「自尊感情、仲間づくりについて」</p> <p>10月 相互授業参観（各学年部）</p> <p>2月26日（月）職員研修 「様々な人権課題について」</p>

特色ある取組（他校にもおすすめの取組）

□ 人権教育を基盤とした授業実践

教師は「児童一人一人を大切にし、認めているか」、児童は「お互いを認め合い、自分の思いを表現しているか」を授業の視点として、全学年で年2回の相互授業参観を行った。



【人権集会の様子】

□ 人権集会での参加型学習

2学期の人権集会では、1・2年生は「ほめほめ言葉のシャワーをあげよう」3・4年生は「自分らしいってどういうこと？」5・6年生は「わたしの権利ランキング」をテーマに、学年ごとに参加型学習を実施した。



【人権作文発表】

□ 人権委員会によるいじめアンケートの実施

人権委員会の児童の提案でいじめアンケートを実施した。児童集会でその結果を発表し、「盈進小からいじめをなくすために」という提言を全教職員・全児童に伝えた。

子どもの人権プロジェクト推進校の取組の成果と課題（子どもの聲、よかったこと、今後やってみたいこと）

- 人権同和教育課から講師を招聘して理論的かつ実践的な研修を行ったことで、教職員の人権意識が向上し、児童への声かけや児童に向き合う姿勢に変容が見られた。
- 安心して自分らしくいられる仲間づくりを進め、自尊感情を育み、いじめや差別・偏見をなくしていこうとする児童を育成するために、まずは教職員が人権感覚を高め、全職員でMOMを大切に児童に向き合うという機運が高まった。